

# 総務企画防災常任委員会行政視察報告書

渡 辺 悟

## ○愛知県安城市

### 市議会 I C T 推進基本計画について

#### 【所 見】

足利市議会の I C T 化の可能性と推進を図るために、先進地である安城市議会を訪問先として視察調査を行う。

安城市では、平成27年6月から I C T の利活用を進めることで、さらなる議会の情報公開（見える化）、効率的な議会運営、議会・議員の活性化を目的に、「議会 I C T 推進プロジェクトチーム」を組織し活動を進めた。安城市議会 I C T 推進基本計画を策定し、平成28年2月の全員協議会からタブレット端末や会議システムを導入しペーパーレス会議を実施している。

安城市では、平成18年頃より本格的な議会改革の議論が始まり、一般質問の一问一答制の導入や、インターネット録画放映の開始、議員定数の適正の議論などが続けられてきた。平成22年市民アンケートを実施し、議会の見える化と改革の推進を確認する。

見える化の一環として、I C T 技術を利用した情報発信・情報の共有等市民に信頼される議会・市民に開かれた議会を目指す同意を図った。

I C T 化推進における過程で、

- ・議員主導での I C T 推進であること
- ・苦手な議員を根気よく指導したこと
- ・ペーパーレス会議だけのメリットではなく、I C T 化によってもたらされるメリットを検討したこと
- ・議会ごとに講習会を開き、全議員の技術向上を図ったこと
- ・タブレットを議員活動にも利用できる環境を整備したこと

が、推進に繋がったものと考える。

本市においても、導入を決定しており今後の推進活動に対する検討材料や、導入過程のスケジュール等における検討課題や導入メリットもはっきり見えてきたものと考える。I C T 推進により本市議会も活性化を図りながら情報公開化や議員個々が飛躍できる確信がつかめた。

## ○静岡県浜松市

### ・浜松市議会大規模災害対応行動マニュアルについて

#### 【所見】

過去の大震災や東日本大震災の発災や、集中豪雨による大災害等に対する災害対応行動マニュアルが各行政機関により策定されているが、議会としての災害対応行動マニュアルは策定されていないのが現状である。

先進地として浜松市を視察調査した。

浜松市では、平成26年10月「浜松市議会大規模災害対応行動マニュアル」を策定し、災害発生後の態勢を初期、中期、後期に定め、災害対策本部が設置された場合の対応を定めている。

本市においても、大地震災害や大規模洪水災害に対する対応行動マニュアルの策定が必要であり、早急な策定を目指したいと考える。

市長を本部長としての災害対策本部が設置されたときの議会・議員としての行動をマニュアル化することで、現場に混乱を与えることなく、災害の規模や現場の状況報告等の伝達や対処等が図れるものとする。

### ・浜松市ソーシャルメディア活用ガイドラインについて

#### 【所見】

いかに必要な情報を必要とする市民に伝えるかが永遠の課題となっている。また、広報紙やインターネット配信では不十分な現状であることから、先進地である浜松市で、ソーシャルメディア活用と活用ガイドラインの制定について視察調査した。

浜松市では、より多くの市民に市政情報を提供するために、テレビの帯番組や広報紙、インターネット配信等行っており、Facebook、ツイッター、ブログ等あらゆる媒体を使った情報発信を行っている。

「職員は、一人ひとりが広報マンであり、PRマンである」という意識のもと、市の魅力の発信を各課や各係にソーシャルメディア開設を許可申告制で認めており、「いいね！」を競い合っている。しかし、職員が利用する際の指針として、業務編とプライベート編のガイドラインを策定することにより、一定の距離を保った関係を維持していることは、ソーシャルメディア活用においての重要なルールであり、情報発信の拡散を図るためには、ガイドラインの策定と見直しが必要であるとする。